



NAREC Newsletter

ナレック ニュース・レター

No.59
2018年春号

環境再生事例 北海道

住宅難の生き物たちに マイホームを提供

道立オホーツク公園（網走市）における巣箱設置活動

カテゴリ

自然環境

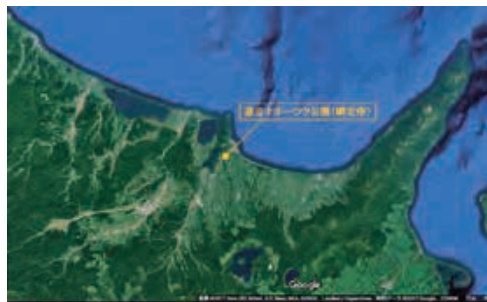


対象テーマ



1

広大な多目的公園の中の 森林が活動の場



1



2

道立オホーツク公園は、網走市内のオホーツク海を見下ろす丘陵地にあります。同公園は107.4ヘクタールもの広大な敷地の中に、オートキャンプ場やパークゴルフ場、子ども向けの遊具広場、各種スポーツ施設、そして世界中の北方民族について学べる博物館など、様々な施設を詰め込んだ多目的公園で、その広大な敷地面積の半分ほどを森林が占めています。

森林の内容としては、ケヤマハンノキやシラカンバ、ミズナラ、イタヤカエデといった郷土樹種が主体の広葉樹林が大半で、生物相は豊かと言えますが、カラマツやトドマツといった植林地もパッチ状に残されており、こうした単純樹種による植林地の生物相については多様性に乏しい面が見られます。

私たちが所属する日本野鳥の会オホーツク支部は、2004年からこの公園の森において、公園事務所および「生き物を育む森づくり委員会」と共同で巣箱を架ける活動を行っています。

1. 道立オホーツク公園の超広域図（航空写真）と公園地図
2. 公園はオホーツク海を望む高台にある

復元前のようす

樹洞の代わりに巣箱を



3

私たちは巣箱を架ける活動を始める数年前から、毎月1回、野鳥観察会を開催してきました。その結果、公園全体ではカラ類などの樹洞性の鳥類が比較的多く観察された一方、それらの巣となる樹洞は中径～大径木の多い広葉樹林に偏ってみられ、小径木の多い広葉樹林や植林地では少なく、特にカラマツ人工林ではほぼ皆無であることがわかりました。

カラマツ林に着目すると、餌場としては様々な種類の鳥たちが利用しているものの、営巣できるのは林床のササの中を利用するウグイスやヤブサメ、アオジなどにほぼ限られ、森のホームビルダーたるキツツキ類が少ないため樹洞ができにくく、カラ類のような樹洞性の鳥の

住環境としては好ましくありません。林床にはミズナラやハリギリ、キハダといった郷土樹種が生えてきているため、カラマツを適度に間伐してこれらの郷土樹種を大きく育てていくなど、森自体を自然度の高いものに徐々に転換していくことができれば理想的ですが、時間がかかるなど容易には実現しがたい面もあり、まずは樹洞を利用する生き物たちに速やかに巣穴を提供して「住環境」を改善しようと、巣箱を設置することを決めました。



4



5

3. 樹洞が少ないカラマツ人工林

4. 巣箱設置作業の様子

5. 小さな子も設置作業に参加

復元後のようす

高頻度で利用される巣箱



6

まず、2005年の春に25個の巣箱を、カラマツ林や小径木の多い広葉樹林といった樹洞が少ないところを中心として様々なタイプの森林に設置し、半年後に利用状況の確認を兼ねた清掃作業を実施しました。初年度は設置時期が遅かったこと(本来は秋が良い)から利用はわずかでしたが、翌年には設置したほとんどの巣箱で利用が確認されました。

巣箱の中に残された巣材などから、鳥類ではヒガラやシジュウカラ、ゴジュウカラ、キビタキなどが利用し、そのほかにヒメネズミやエゾモモンガといった哺乳類、ケブカズメバチといった昆虫の利用も確認されました。巣穴としての利用はもちろん、ねぐらや貯食庫としての

利用など、想像以上に様々な種類の生き物たちが様々な形で利用していることがわかり、「やはり森の生き物たちは巣箱(樹洞)を切望していたのだ・・・!」と強く実感しました。

中でも観察会ではほとんど出会うことのないヒメネズミが多くの巣箱で利用が確認され、実際には数多くこの森に存在していることがわかったことは大きな収穫でした。さらに、ヒメネズミはカラ類などの鳥類が巣立ったあと、入れ替わるようにして巣材を上積み重ねて再利用していることが多く、一つの巣箱が多くの生き物たちに利用されている様子がわかり、とても感動しました。



7



8



9



10

6. 大量の枯れ葉はヒメネズミ使用の証

7. 巣穴から顔を覗かせたヒメネズミ

8. 孵化しなかった卵が残されていることも多い

9. ぎっしりと苔が詰まった巣箱

10. キビタキが使用したと思われる巣箱

巣箱にも多様性を



11

巣箱は入口の穴の大きさや本体のサイズ、設置環境・状況によって利用できる種類が違ってきます。今回のように、巣箱を様々な生き物たちに利用してもらおうとする場合、生物の多様性に合わせて、巣箱にも多様性が必要です。

私たちは、東京農業大学オホーツクキャンパスで教鞭をとっておられた鈴木悌次先生のご協力を得て、キビタキやオオルリといったヒタキ類用のもの(木の裂け目などを利用するので、開口部が縦に長い)や、野鳥の会会員からの提供を受けて、フクロウ向けの大型のものなど、様々なタイプの巣箱を用意・設置することができました(今後はコウモリ用の巣箱も架巢する予定です)。

設置作業時の安全性との兼ね合いで、あまり高い位置には設置できないという問題はあるのですが、逆に地

面すれすれの低い位置に設置してみたり、つる性の植物にぶら下げてみるなど、常識にとらわれず、様々な架け方を試してみました。結果、前章で触れたように、巣穴としては利用されずとも、ねぐらや貯食庫として利用されるなど、利用方法にも多様性が見られたことは楽しい収穫でした。



12



13



14

11. いろいろなタイプの手作り巣箱

12. ヒタキ類用の巣箱

13. 地上付近に架けた巣箱

14. フクロウ用の大型巣箱

巣箱は清掃が大切



15

2年目以降、春の設置は行わず、毎年9-10月頃に1回、清掃と補充・架け替えなどの作業を実施しています。作業にあたっては、野鳥の会会員以外にも公園事務所を通じて一般市民にも参加を広く呼びかけ、観察会形式で実施しています。

「巣箱架け」については全国各地で大小様々なイベントなどで一般的に実施されていますが、架けっぱなしで維持管理には気を配っていないことが多いと思います。清掃しない巣箱は、本体の大きさなどや環境などの条件にもよりますが、数年程度で巣材が満ちてしまったり、古い巣材や死んだ雛・幼獣が腐敗し、悪臭を放ったりして、次第に使われなくなる傾向が強いです。また、設置する際に針金などを利用している場合は、2年もすれば樹皮にめり込んでしまって樹木を傷めてしまうことになり

ます。こうした痛ましい光景を見るのは忍びなく、活動を始め際にはこうしたことは避けようと決めました。

清掃はなかなか骨が折れる作業ではありますが、巣の中から出てくる巣材の種類や卵の殻などのヒントから住人たる生き物の種類やその生活ぶりを推理する楽しさがあります。利用されなかった巣箱についても、その理由を考えることで鳥やネズミたちなど森の生き物たちの生活史やつながりを深く理解するきっかけになり、とても有意義な取り組みだと思っています。一例を挙げると、すっかり森の厄介者になってしまったエゾシカも、その体毛は中空構造により空気を多くはらむことで保温効果が高いため、産座用の巣材として鳥たちに大人気であることなど、実に様々なことを参加者間で共有でき、森の生態系を見つめ直すきっかけになっていると思います。



16



17

15. 中に詰まった巣材を掻き出している様子

16. 大量の苔と獣毛はヒガラなどのカラ類

17. 参加者全員で巣箱の中身を観察して推理



18. 孟宗竹巣箱（節の部分に穴を開けた
模型でも可）と、ひょうたんに穴を開
けただけの巣箱
19. ファイバースコープで架巢中の巣箱
の中を確認

巣箱の清掃活動を通じて学ぶことは多くある一方、清掃のためには「巣箱を取り外し、清掃し、また架ける」という3段階の作業が必要となるため、巣箱の数が増えるに伴い、少々負担に感じることも多くなってきました。無理なく楽しく続けていくためにも、作業を簡素化して負担を軽減する手法を模索し始めています。まずは考え方を転換し、清掃そのものを不要とする方向で検討しています。

清掃はしない代わりに毎年新しい巣箱をどんどん設置して、森の生き物たちには常に新鮮な巣穴を提供していくという考え方です。樹木への負担なども考慮し、巣箱を架ける際にはシュロ縄などの数年程度で自然に切れるものにする、また巣箱自体も落巢したあとは速やかに土に還る素材だけを使用しようと考えています。この考え方に賛同してくれた会員の協力で、孟宗竹やヒョウ



川崎康弘（かわさきやすひろ）
1974年生まれ
川崎里実（かわさきさとみ）
1971年生まれ
（両名とも）日本野鳥の会オホーツク支部
環境再生医（中級）

●活動分野
北海道・特にオホーツク地方の鳥類相

●主な研究発表・講演等
川崎康弘ほか（2014）
北海道で観察されたサンショウクイとコサメビタキによる同一巣へ巣材持ち込み行動。
Strix 30: p.149-155

●連絡先
〒099-3452
北海道斜里郡小清水町浜小清水 72-25
TEL: 0152-63-4110
E-mail: wryneck123@gmail.com（康弘）

タンを利用した巣箱をいくつか用意できました。近々実際に架巢して試してみたいと考えています。問題なく利用されることを確認でき、安定的に量産する算段がつけば、毎年の作業は新しい巣箱を追加補充すれば良いだけとなり、負担は大幅に減ります。

巣箱の中の観察にあたっては、古くなったものなら土に還すことを前提にその場で分解してもよいですし、近年ずいぶん安価となったファイバースコープなどのグッズを活用すれば架巢状態でも観察が可能です。

今後も創意工夫を重ねながら活動が続けていき、参加者の方々に自然観察の楽しさを伝えていきたいと思えます。そして、参加者各自が自分の庭にも巣箱を架け、「一庭一巣箱」的な広がりを地域に生むことができれば…と夢見しています。

ふるさと未来創造プロジェクト

ふるさと未来創造プロジェクトでは農林水産省の進める農山漁村の活性化事業を活用し、平成20年度から全国各地約50の地域と協働しています。本年度の活動支援の一部をご紹介します。



農福連携

埼玉県鶴ヶ島市高倉地区の地縁団体「高倉ふるさとづくりの会」が実施する農業と福祉の連携事業を支援しています。2017年度は、地区で古くから栽培されていた小麦「農林61号」を使った特産品を開発しました。次年度はその栽培と加工販売を事業化し、市内の障害者の雇用の場の創出を目標としています。

農泊

静岡県松崎町と山梨県道志村では、2017年度新たに始まった農山漁村振興交付金「農泊推進事業」を活用した地域協議会による農泊の仕組みづくりを支援しています。泊まる・味わう・買う・楽しむを連携して受け入れる体制を整え、地域に眠るさまざまな資源を活用することにより、持続可能な産業として確立し地域の所得向上を実現します。

グリーン・ツーリズム

栃木県宇都宮市、栃木県さくら市、宮城県気山沼市では、農山漁村に滞在して自然・食や歴史などの文化・人々との交流を楽しむ余暇の過ごし方を提案しています。宇都宮市上河内地区では農作業体験、さくら市ではりんごデザインと収穫体験、気山沼市では小学生対象の「生きる力プログラム」を実施し、地域内外から多くの参加がありました。

「環境再生医 資格認定 講習会 2017」

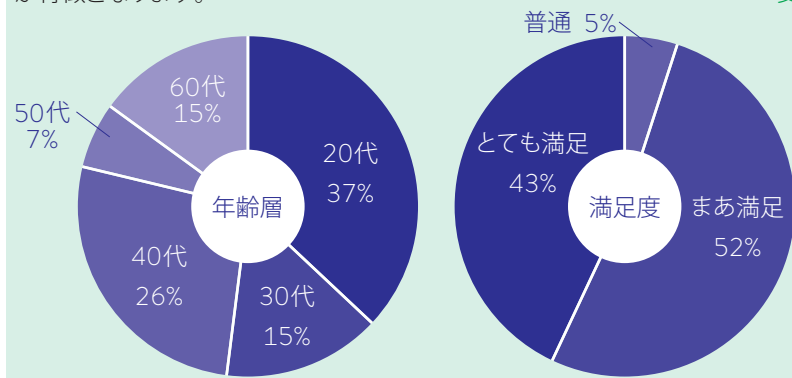
お陰さまをもちまして、本年度の環境再生医「資格認定講習会」を盛況のうちに終了いたしました。本年度も、環境再生医が重要視している『自然とヒトの関わり再生』について、ディスカッションや特別講義などを通して考えていただき、大変ご好評をいただきました。また近年は、受講者の年齢層が20-30代が多く、まさに「これからの時代を担う環境人材」の方々に参加いただいていることが特徴となります。

開催概要

東京会場：2018年1月6日（土）-7日（日）
北海道会場：2017年9月30日（土）-10月1日（日）
合格者：24人
平均年齢：38.7才

受講者の声

- 充実した試験と講習会でとても満足しています。また上級試験を受けに来ます。
- 様々な業種や年代の方々といういろいろな話、これまでの価値観を見直すくらい考えさせられる貴重な機会でした。
- 講習を通し、今まで知識ベースだったことが実務につながり、実務ベースだったことが体系的知識になりました。



今回の お知らせ

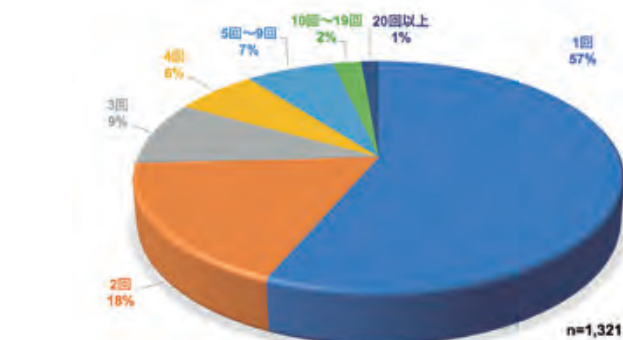
2018年度 環境再生医 資格認定 講習会

日時：2019年1月12日（土）-13日（日）
詳細・申込：2018年7月頃ホームページにて公開予定



RANGERS PROJECT.

地域の環境保全団体の人手不足を解決するボランティア人材のマッチングを行っています。ボランティアを希望する登録者は3,079名、2017年度40回実施した地域の団体との環境保全活動に、のべ336名(2018年2月18日現在)の参加がありました。記録的な長雨の影響で、まったく実施できない月もありました。2012年に始まったこのプロジェクトは、これまでに1,321名、のべ3,448名の参加がありました。この1,321名のうち、1回のみ参加が57%、2-4回が約30%と、一時的な人材支援となるマッチングでは一定の成果が得られています。参加したボランティアのうち、地域の団体への定着(入会)は2名(事務局調べ)であり、地域の団体への継続した支援はなお課題となっています。



ボランティア活動参加回数



特定の種のための草取り



現地の方と協力して



田んぼの草取り

理事会のご報告

平成29年度第4回理事会

平成29年11月18日(土)10時-12時、中央大学駿河台記念館(東京都千代田区)にて平成29年度第4回理事会を開催しました。

この理事会では平成29年度第3回理事会に続き Panasonic NPO サポートファンドにて第三者の専門家を交えて行っている「組織診断」のうち、「理事数の見直し」について、アンケート結果・分析に基づいた検討を行いました。

●確認事項

(1) 平成29年度第3回理事会議事録の確認

●審議事項

(1) 環境再生医の認定

●検討事項

(1) 理事数の見直しについて

●報告事項

(1) 就業規則等関連規程の変更について

事務局よりご案内

第8回大阪マラソン

第6回第7回に続き、第8回大阪マラソンでも寄付先団体に選定されました。

活動に参加する…大阪府内の環境保全活動「おおさかレンジャーズ」、走る…クラウドファンディングで寄付を集めて出走確約「チャリティランナー」、募金する…チャリティランナー・協会へのクラウドファンディングなどを通じたご寄付、応援する…当日の沿道での声援、など皆さまのご支援を引き続きよろしくお願いいたします。

(当協会は認定NPO法人です。個人・法人からの寄付は税制優遇があります。)

編集後記

1年間のご協力に感謝します。楽しく務めさせていただきました。(五十嵐章子)

まだ残る寒さの中、庭に来るメジロの姿に春のほころびを感じています。(宇野智美)